**平成２８年度**

**(社)日本ダイバーシティアート学会　事業計画書**

(平成2８年4月1日~平成29年3月31日)

1. 事業方針

　マリスアートプロジェクトとダイバーシティ(みんなで一緒に)のデザイン。この２つを軸に研究開発をする。

　当法人の第一の目的は、視覚障がい者を中心に他の障がい者及び身体的に不自由な部分を有する高齢者に、文化、生活環境の向上のためのアートとデザインの研究及び開発。第二の目的は、第一の目的を社会に活かす為の啓蒙と普及活動事業。

　日本人が、2020年のオリンピック・パラリンピックを体験した後、両大会の理念に基づき、混ざり合うダイバーシティ社会の構築を世界最高レベルで一般の人々まで行き渡らせることを実現してはじめて、日本が世界をリードする存在となることができるのではないかと考える。

　私達の団体は、今までのマリスアートプロジェクトがおこなってきたアート(art and design)の研究・実験・実践をよりグローバル化し、日本のみならず、世界に貢献していくために設立。

「マリスとは」

　色彩学上、色の表現は明度・色相・彩度の３点から成り立つ。マリスはその内の２点(明度と色相)を抽出し、明度を砂の粒度の違い、色相をハーブエッセンシャルオイルの香りの違いで置き換えて表現する絵画技法。

　2009年に高橋りくが発明。

「マリスアートプロジェクトとは」

　マリスにより、色が触感と香りで表現可能となり、全盲の人でもわかる絵画、つまりダイバーシティのアートにおける具現化に成功した。当プロジェクトは、このマリス技法の研究をより一層重ねていく一方、ダイバーシティ社会への啓蒙をアートから推進させる活動を行っている。

目的

* 1. アートとデザインをとおし、視覚障がい者及び視覚障がいに関する高齢者の文化、生活環境の向上に対する研究及び開発
  2. 前号を社会に活かす為の啓蒙と普及活動事業
  3. 特許権の取得及びその管理
  4. 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

1. 会議
   * + 社員総会

2016年12年9日(金)

1. 事業計画
2. マリス絵画研究

　2009年に、全盲の人もわかる絵画・マリスが誕生。

　視覚障がい者のためのアートの作品紹介は、今まで様々な工夫のもとに制作されてきたが、名画の輪郭に沿って点字のように凹凸があるだけというような、晴眼者が見ると芸術作品とは程遠い表現だった。また、レリーフ(彫刻の分野)を絵画と混同するレベルの美術専門知識のない人間が多く関わることで、彫刻と絵画の違いさえも視覚障がい者には正確に伝わっていない現状がある。

　当学会は、世界中の盲学校の子どもたちや目の見えない人びとに、「晴眼者と一緒に芸術としての絵を鑑賞する機会」、「芸術の代表とも言える絵画を観る体験の場の創造」が必要と考える。耳の聞こえない子が骨振動で音楽を楽しめるように、盲学校の子どもたち、目の見えない人びとが、指で絵を楽しむことができる場を作り出す。その為にマリス技法のさらなる研究を推進する。

1. 視覚障がい者のみの老人ホームを建設及び運営

　単なる福祉のみにとどまらず、ダイバーシティデザインの研究と実験の場として、各国１カ所、視覚障がい者のみの老人ホームを建設及び運営する。(モデルとして日本国内では社会福祉法人聖明福祉協会理事長/本間昭夫氏が各都道府県1か所の建設を行っている。現在、鳥取・岐阜・富山のみ未建設。)

1. ダイバーシティデザイン開発・研究

　JIS基準から外れた視覚障がい者には不便な点字ブロックなどが横行している。当法人は、障がい者団体と連携を取り、より障がい者の立場に立ったデザインの開発・研究を行う。

1. マリス絵画展、マリスアートプロジェクト事業

　当法人は、マリス絵画や、マリスアートプロジェクトで行う全ての展覧会事業を行う。

〈今年度事業〉

1. 会場：世田谷美術館

展示会名：マリスアートプロジェクト　手で触るサッカーのスコアボード　–触れるアート展 Art exhibition to touch–

会期：2016年6月7日(火)〜6月12日(日)

1. 会場：ベンジャミン・コンスタン盲学校(リオデジャネイロ・ブラジル)

展示会名：マリス絵画展

S会期：2016年9月8日(木)〜16日(金)

1. 2016リオデジャネイロ高橋りく個展報告会

会場：東京都盲人福祉協会

日時：2016年11月末日